

富山県立砺波高等学校

令和四年度 必履修科目シラバス

国語	現代の国語（１年） 言語文化（１年）
地理・歴史	歴史総合（１年） 日本史Ｂ（２年、３年） 地理Ｂ（２年、３年）
公民	公共（１年）
数学	数学Ⅰ（１年）
理科	物理基礎（１年） 化学基礎（２年） 生物基礎（１年）
保健体育	体育（１年、２年、３年） 保健（１年、２年）
芸術	音楽Ⅰ（１年） 美術Ⅰ（１年） 書道Ⅰ（１年）
外国語	英語コミュニケーションⅠ（１年）
家庭	家庭基礎（１年）
情報	情報の科学（２年）

教科・科目		学年	単位数	教科書	補助教材
国語 現代の国語		1年	2単位	探求 現代の国語 (桐原書店)	『探求 現代の国語 予習復習ノート』 (桐原書店) 『頻出漢字マスター3000』(尚文出版) 『グラusstap現代文 1.5』(尚文出版) 『新国語総合ガイド』(京都書房)
教科 科目 目標	言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を下記のとおりに育成することを目指す。				
観点別 目標	(1)知識・技能	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。			
	(2)思考・判断・表現 (話す・聞く能力、書く能力、読む能力)	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	(3)主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
評価方法	定期考査、話し合い活動、レポート、小テスト、課題(問題集)、授業ノート等				
学期	月	学習内容(内容のまとまり、章)	学習目標	観点別評価規準	
第1学期	4	○〈知〉のコミュニティへ	○筆者のものの見方や感じ方を理解するとともに、自己を見つめ、自己の生き方を模索するきっかけを得る。また、自己を取り巻く世界との関わり合い方を考えることができる。	(1)特定の文章や文章表現の効果を理解している。 (2)「読むこと」において、筆者が理想とする、言葉のあり方や他者理解のあり方について理解している。 「話すこと・聞くこと」について、「きこく人は、ちょっとわからないくらいがよい」という筆者の考えに対して自分なりの考えを持ち、話し合いをしている。 (3)筆者の考えに自らの経験を照らし合わせて自分なりの言語観を持ち、深めている。	
		○体験と思索Ⅰ	○筆者のものの見方や感じ方を理解するとともに、自己を見つめ、自己の生き方を模索するきっかけを得る。また、読書について考えることができる。	(1)文章の記述と資料との対応関係を理解している。 (2)「読むこと」において、筆者が生徒する読書の意義について、「言葉」と「本」の関わりから説明している。 (3)「本」や「読書」のあり方について論じた評論を読むなどして、考察を深めている。	
	5	○評論Ⅰ	○文章の構成や論の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えたとともに、日本の文化や言葉について時分の考えを深めることができる。	(1)具体的なエピソードと筆者の主張との関係について理解している。 (2)「読むこと」において、「言葉の力」についての筆者の考えをまとめ、主題を理解している。 「書くこと」において、本文の読み取りをもとに、自分にとっての「さやかだが心に染みた言葉」について、構成や表現を工夫しながら400字程度の文章にまとめている。 (3)「言葉の力」というタイトルについて考えることから、教材の内容への関心を高めている。	
	6	○評論Ⅱ	○論理性に着目して評論を読み解く方法を学んで筆者の考えをまとめ、現代の科学や創造的に読むことについて自分の考えを深めることができる。	(1)本文の記述と、写真や年表との対応関係を理解している。 (2)「読むこと」において、文明を文化させるのは以外にもその時代にもっとも普遍的な社会の通念や風土であるという筆者の考えを的確に捉えている。 「書くこと」において、本文の内容を参考に、科学技術の発展が人の考え方に影響を及ぼした例を自分なりに考え、構成や表現を工夫しながら600字程度の文章にまとめている。	
	7	○実社会Ⅰ	○社会に関連する文章を読み解くことで、実社会との関わり方について自分の考えを深めることができる。	(1)用語を理解し、背景情報を分類している。 (2)「読むこと」において、本文の内容を、情報の扱いの観点から読み取っている。 (3)具体的な事例や問題の経験の中に求め、発表している。	
第2学期	9	○評論Ⅲ	○文章の構成や論理の展開に注意しながら、評論文の内容を的確に捉えたとともに、社会や個人のあり方について自分の考えを深めることができる。	(1)キーワードの意味を正確に理解している。 (2)「読むこと」において、「信任」関係について把握したうえで、現在時代に論理的な行動が要請されることを理解している。 「話すこと・聞くこと」において、本文発表後の地球温暖化防止をめぐる最新の世界情勢を調べたうえで、資料を効果的に用いるながら討論している。 (3)社会問題をめぐる最新の世界情勢を調べ、自ら問題点を導き出し、その解決策を考えている。	
	10	○体験と思索Ⅱ	○他者の生き方から普遍的な価値を見出し、テーマに対する筆者の姿勢を理解したうえで自らの考えを持ち、生きることについての考えを深めることができる。	(1)筆者の中心となる意見と、それを支える論拠や引用との関係を理解している。 (2)「書くこと」において、戦争に關して自ら題材を設定し、筆者の姿勢を参考にしながら戦争体験者の話を聞いたり、資料を調べたりしたうえで、レポートにまとめている。 (3)時代や国を超えた人間の普遍的な生き方について関心を持っている。	
	11	○評論Ⅳ	○コミュニケーションに関する文章を読んで理解し、筆者の主張を踏まえた上で社会の変遷や他者と自分との関係性について自分の意見を持つことができる。	(1)抽象的な概念を正確に理解している。 (2)「読むこと」において、「他者の理解」において大切なことは何かを的確に読み取っている。 (3)本文中の具体例を通して、他者理解やコミュニケーションについて考えている。	
	12	○実社会Ⅱ	○社会に関連する文章を読み解くことで、実社会との関わり方について自分の考えを深めることができる。	(1)本文をインタビューによる取材内容と、筆者の考察とに分けて理解している。 (2)「読むこと」において、「見えない人」の空間や物事の捉え方の特徴を、「見える人」のそれとの比較から理解している。 (3)具体的な事例や問題点を調べるなどして、教材の内容への関心を高めている。	
第3学期	1	○評論Ⅴ	○科学技術や言語についての文章を読んで理解し、筆者の主張を踏まえたうえで、「AI」や「コミュニケーション」といった現代的なテーマについて自分の意見を持つことができる。	(1)多用される指示表現が指す事柄を、それぞれ正確に理解している。 (2)「読むこと」において、「AIが人類を未来の消失から救ってくれそうもない」と筆者が心配する理由を理解している。 「話すこと・聞くこと」において、AIにあたる判断を要するようになることは人間にどのような影響を及ぼすかを考え、話し合っている。 (3)本文中の用語や論点について調べ、教材の内容への関心を高めている。	
	2	○評論Ⅵ	○思考の相対化や思想の多様性をテーマとした文章を読んで理解し、筆者の主張を踏まえたうえで、「相対性」や「多様性」といった現代的なテーマについて自分の意見を持つことができる。	(1)本文における筆者の主張と、引用される文学作品との関係について理解している。 (2)「読むこと」において、自分の身近にある敵対や対立を例にとり、その原因や解決策を本文の内容を踏まえて考察している。 (3)他人との合意を求めようとする一方で対立や敵対を生む思想について、社会のあり方と絡めて関心を持っている。	
	3				

教科・科目		学年	単位数	教科書	補助教材
国語 言語文化		1年	3単位	言語文化 (数研出版)	『言語文化 準拠ワーク』(数研出版) 『体系古典文法』(数研出版) 『体系古典文法 準拠ノート』(数研出版) 『漢文必修』(桐原書店) 『漢文必修 チェックノート』(桐原書店) 『基礎古典』(尚文出版) 『グラントップ現代文1.5』(尚文出版) 『頻出漢字マスター3000』(尚文出版) 『新国語総合ガイド』(京都書房)
教科 科目 目標		言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で的確に理解し効果的に表現する資質・能力を下記のとおりに育成することを目指す。			
観点別 目標	(1)知識・技能	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。			
	(2)思考・判断・表現	「読むこと」、「書くこと」の各領域において、論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。			
	(3)主体的に学習に取り組む態度	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。			
評価方法		定期考査、話し合い活動、レポート、小テスト、課題(問題集)、授業ノート等			
学期	月	学習内容(内容のまとまり、章)	学習目標	観点別評価基準	
第1学期	4	○古文編 説話 ○古文編 物語	【古文編】 ○古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解することができる。 ○作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈することができる。 ○文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価することができる。	【古文編】 (1)古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	
	5	○古文編 随筆(一) ○近現代編 近代小説(一)	○作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	(2)「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。	
	6	○漢文編 入門 ○漢文編 故事	○作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	(3)「書くこと」において、自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫すること。	
	7	○古文編 歌物語	○作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	(3)粘り強く本文の内容を捉え、今までの学習を生かして積極的に話し合いに参加しようとしている。	
	7	○古文編 歌物語	○作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。		
第2学期	9	○古文編 随筆(二) ○漢文 史伝	【漢文編】 ○我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解することができる。 ○古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解することができる。 ○作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 ○作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	【漢文編】 (1)我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。 古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。	
	10	○近現代編 近代小説(三) ○古文編 日記文学	○作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつことができる。 ○作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	(2)「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。	
	11	○漢文編 史伝	○作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	(3)粘り強く本文の内容を捉え、今までの学習を生かして積極的に話し合いに参加しようとしている。	
	12	○古文編 和歌	○作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めることができる。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。		
第3学期	1	○漢文編 漢詩 ○古文編 軍記物語	【近現代編】 ○文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解することができる。 ○言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解することができる。 ○文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	【近現代編】 (1)文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解している。	
	2	○漢文編 文章	○文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	(2)「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。 「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。	
	3	○漢文編 思想	○文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えることができる。 ○言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち、言葉を通して他者や社会に関わろうとする。	(3)粘り強く本文の内容を捉え、今までの学習を生かして積極的に話し合いに参加しようとしている。	

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
地理歴史 地理B	2年	2・3 単位	新詳地理B (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)	新詳地理資料 COMPLETE2022 (帝国書院) サクシード地理 (啓隆社)
科目の概要と目標	現代世界の地理的事象を系統的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。			
単 元	学習内容		到達度目標	
第Ⅰ部 さまざまな地図と地理的 技能	・ 地図の発達 ・ 地図の種類とその利用 ・ 地理情報の地図化		・ 世界観の変化とともに認識される地域が広がり、地図も変化してきたことを理解する。 ・ 立体である地球を平面に表した場合、歪みが生じるので用途に合わせた地図を用いることができる。 ・ 科学技術の発達とともに新しい地図が用いられるようになってきたことを理解する。 ・ 地形図の基本的な読図ができるようになる。	
第Ⅱ部 現代世界の系統地理的 考察 【自然：地形】	・ 地球規模の大地形 ・ 小地形		・ プレートテクトニクスや世界の大地形の成因について理解する。 ・ 安定陸塊・古期造山帯・新期造山帯の特徴および分布を理解する。 ・ 平野の成因と特色を理解し、人間生活との関係を理解する。 ・ 海岸地形などの小地形の成因と分布について理解する。	
第Ⅱ部 【自然：気候、 環境問題】	・ 気候の成り立ち ・ 世界の気候区分 ・ 日本の自然の特徴と人々の生活 ・ 環境問題		・ 気候要素（気温・降水など）および大気の大循環を理解する。 ・ 世界の気候区を区分し、その特徴を理解する。また、農業をはじめとする人々の暮らしとの関係を考察することができる。 ・ 日本の地形および気候の特徴を理解し、災害や防災への関心を高め、考察することができる。 ・ 世界をとりまく環境の変化と地球的課題を理解する。	
第Ⅱ部 【産業：農林水産業】	・ 農業 ・ 林業 ・ 水産業 ・ 食料問題		・ 世界の農業地域を区分し、それぞれの形態や分布の特徴について理解する。 ・ グローバル化が進む中での、世界及び日本の農業の課題について考察する。 ・ 世界の森林の分布とその利用について理解する。 ・ 世界および日本の農林水産業の課題について考察する。	
第Ⅱ部 【資源・エネルギー】 【産業：工業】	・ エネルギー・鉱産資源 ・ 工業の発達と立地 ・ 世界の工業地域		・ 世界のエネルギー・鉱産資源の分布とその利用について理解する。 ・ 工業の発達、立地について理解し、その変化について考察する。 ・ 世界の工業地域の特徴とその変容について理解する。	

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
地理歴史 地理B	3年	4単位	新詳地理B (帝国書院) 新詳高等地図 (帝国書院)	新詳地理資料 COMPLETE2021 (帝国書院) 2022 データブック (二宮書店) サクシード地理 (啓隆社)
科目の概要と目標	現代世界の地理的事象を系統的、地誌的に考察し、現代世界の地理的認識を養うとともに、地理的な見方や考え方を培い、国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を養う。			
単元	学習内容		到達度目標	
第Ⅱ部 現代世界の系統地理的 考察【林業・水産業】 【資源・エネルギー】 【産業：工業】	・林業・水産業 ・エネルギー・鉱産資源 ・工業の発達と立地 ・世界の工業地域		・世界の林業、水産業の特徴について理解する。 ・世界のエネルギー・鉱産資源の分布とその利用について理解する。 ・工業の発達、立地について理解し、その変化について考察する。 ・世界の工業地域の特徴とその変容について理解する。	
【第3次産業】	・商業 ・余暇・観光		・日本人の消費行動について理解する。 ・日本とヨーロッパの余暇活動の相違について理解する。	
【交通・通信】 【貿易】	・世界の交通網 ・情報 ・貿易		・水上・鉄道・自動車・航空交通の特徴について理解する。 ・情報と通信の発達について理解する。 ・国際分業と貿易の地域間格差を考察することができる。	
【人口、村落と都市】	・人口の現状と人口問題 ・村落と都市 ・都市問題		・世界や日本の人口の現状を知り、先進国と途上国の人口問題の差異について考察することができる。 ・現在の集落の立地や成り立ちについて理解する。 ・世界の都市・居住問題について考察することができる。	
【生活文化、 民族・宗教】	・生活文化 ・民族と宗教 ・国家、民族、領土問題		・世界の衣食住の地域的差異や世界的な画一化について理解する。 ・世界の民族・言語・宗教について理解する。 ・民族問題について世界的視野を持って追求し、その解決に何が必要なのかを考えることができる。	
第Ⅲ部 現代世界の地誌的考察 【地域区分】 【現代世界の諸地域】	東アジア 東南アジア 南アジア 西・中央アジア アフリカ ヨーロッパ ロシア アングロアメリカ ラテンアメリカ オセアニア		・国家規模の地域を地誌的にとらえる視点を理解する ・それぞれの地域の自然環境や文化等を知り、他地域との比較でその地域の特徴を深く理解する。	
第Ⅲ部 【現代世界と日本】	・現代世界と日本		・現代の日本を知り課題や将来のありかたを展望する。	

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
地理歴史・日本史B	2・3年	6/7 単位	詳説日本史改訂版 (山川出版社)	新詳日本史(2・3年) (浜島書店)
科目の概要と目標	わが国の歴史の展開を諸史料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連づけて総合的に考察させ、わが国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的考察力を培い、国際社会を主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。			
単 元	学習内容		到達度目標	
第1章 日本文化のあけぼの	1 文化の始まり 2 農耕社会の成立 3 古墳とヤマト政権		・石器や土器などの考古資料を自然環境や大陸との影響に着目し、各時代の特徴を理解する。 ・小国の形成からヤマト政権の成立を文献などに基づき、大陸との関係などから多角的に考察する。	
第2章 律令国家の形成	1 飛鳥の朝廷 2 律令国家への道 3 平城京の時代 4 天平文化 5 平安王朝の形成		・律令体制の導入から成立の過程を大陸との関係や政治動向に着目して理解する。 ・大陸との交流を踏まえ、政権の確立や文化の成立を考察する。 ・文献資料を基に藤原氏を中核とする政治抗争の進展と土地制度の変容を関連づけて考察する。	
第3章 貴族政治と国風文化	1 摂関政治 2 国風文化 3 地方政治の展開と武士		・藤原北家の摂関政治の成立過程をその影響を考察する。 ・大陸情勢の変化が日本の文化に与えた影響に着目し、貴族の生活や文化を理解する。 ・地方支配の変化などから中世の萌芽を見出す事ができる。	
第4章 中世社会の成立	1 院政と平氏の台頭 2 鎌倉幕府の成立 3 武士の社会 4 蒙古襲来と幕府の衰退 5 鎌倉文化		・荘園公領制について理解する。 ・平氏政権の権力確立方法の特性から武家政権の成立への過渡期であることを理解する。 ・朝幕二元支配体制から武家政権への変容を理解する。 ・鎌倉仏教の社会的・思想的意義、影響について理解し、文学や美術への影響を考察する。	
第5章 武家社会の成長	1 室町幕府の成立 2 幕府の衰退と庶民の台頭 3 室町文化 4 戦国大名の登場		・鎌倉幕府の滅亡から南北朝の動乱を経て守護大名の台頭が地方勢力の確立につながっていくことを理解する。 ・流通経済の進展や農商業の発達から庶民の台頭を考察する。 ・室町時代の文化を通じて武家・公家文化の融合や、禅の文化への影響、また、この時代の文化が現在の日本文化につながっていることを理解する。	
第6章 幕藩体制の確立	1 織豊政権 2 桃山文化 3 幕藩体制の成立 4 幕藩社会の構造		・ヨーロッパ世界と接触とその影響について考察する。 ・織豊政権の政策が幕藩体制の基盤になることを理解する。 ・江戸時代初期の外交から鎖国までの過程を貿易統制の側面と東アジアの動向と関連させて考察する。	
第7章 幕藩体制の展開	1 幕政の安定 2 経済の発展 3 元禄文化		・幕藩体制の安定過程を考察する。 ・幕藩体制安定期の諸産業の発展について、相互の関係や社会的役割を考察する。 ・経済の発展と関連して町人文化が形成されたことを町人の台頭とあわせて理解する。	
第8章 幕藩体制の動揺	1 幕政の改革 2 宝暦・天明期の文化 3 幕府の衰退と近代への道 4 化政文化		・都市や農村の変容により幕藩体制が動揺、幕府や諸藩が行った諸改革の意義とその影響を理解する。 ・列強の接近など国際情勢の変化やそれに対する幕府の対応から幕府の衰退を見ることが出来る。 ・幕藩体制への批判的思想の登場、出版文化や庶民教育による文化の展開について理解する。	

第9章 近代国家の成立	1 開国と幕末の動乱 2 明治維新と富国強兵 3 立憲国家の成立と日清戦争 4 日露戦争と国際関係 5 近代産業の発展 6 近代文化の発達	・国際社会に組み込まれることで起こる変化に着目して、幕末から明治までの政局の変化を考察する。 ・明治政府の制度改革や富国強兵策などに着目し、国家的統一過程、さらに立憲国家の成立の過程を考察する。 ・列強諸国との関係の変化が条約改正交渉に与えた影響や、日清・日露戦争を通じて日本国内及び近隣諸国に与えた影響を理解する。 ・日本の産業革命による資本主義体制の基礎の確立と、近代産業の発展に伴う社会問題の発生について考察する。
第10章 二つの世界大戦とアジア	1 第一次世界大戦と日本 2 ワシントン体制 3 市民生活の変容と大衆文化 4 恐慌の時代 5 軍部の台頭 6 第二次世界大戦	・政党政治の発展や中国進出の状況を踏まえ、第一次大戦前後の政治・外交の動向や推移を考察する。 ・さまざまな社会運動が民主主義的な傾向の中で展開したことを理解する。 ・国際協調体制の進展から世界情勢の変化に伴う国際的孤立の過程を国内外の政治状況や経済動向などを踏まえながら考察する。 ・軍部の政治的進出の過程を理解する。
第11章 占領下の日本	1 占領と改革 2 冷戦の開始と講和	・対日占領政策に伴う戦後の諸改革について、戦後の世界秩序を踏まえて考察する。 ・東西冷戦が対日占領政策にもたらした影響を日米関係や近隣諸国との関係から理解する。
第12章 高度成長の時代	1 55年体制 2 経済復興から高度成長へ	・独立後の国内政治を55年体制の成立・保守安定政権の流れで理解する。 ・独立回復後の近隣諸国との外交関係を考察する。 ・特需景気以降の高度経済成長について、経済の国際化・国内の技術革新の側面に着目して考察する。
第13章 激動する世界と日本	1 経済大国への道 2 冷戦終結と日本社会の変容	・石油危機以降の世界の動きと、日本の経済動向について理解する。 ・冷戦終結後の日本の経済動向、国際社会との関連について考察する。

教科・科目		学年	単位数	教科書	補助教材
地理・歴史 歴史総合		1	2	山川出版社 『歴史総合 近代から現代へ』	新詳歴史総合(浜島書店) 歴史総合問題集(山川出版社)
教科科目 目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追及したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
観点別 目標	(1)知識・技能	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とその中の日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。			
	(2)思考・判断・表現	近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。			
	(3)主体的に学習に取り組む態度	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追及、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。			
評価方法	定期考査、発表の取り組みおよびレポート、課題(問題演習、小テスト)				
学期	月	学習内容(内容のまとまり、章)	学習目標	観点別評価基準	
第1学期	4	1第2章 近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立 1 ヨーロッパ経済の動向と産業革命 2 19世紀のヨーロッパ 3 アジアの変容と植民地化 4 中国の開港と日本の開国	16世紀にはアジア各地で大帝國が成立し繁栄していたこと、同時期にヨーロッパ各国がアジアに進出し、世界的な規模で経済が発展していったことを理解する。	(1)18世紀のアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀のアジアの経済と社会を理解している。 産業革命と交通・通信手段の革新、中国の開港と日本の開国などを基に、工業化と世界市場の形成を理解している。	
	5	3章 明治維新と日本の立憲体制 1 明治初期の対外関係	欧米諸国との外交関係に留意しながら、日本が欧米の新技術の導入をどのように進めたかを理解する。	(2)産業革命の影響、日本の開国の背景とその影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、アジア諸国と欧米諸国との関係の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
	6	2 自由民権運動と立憲体制 4章 帝国主義の展開とアジア 1 条約改正と日清戦争	19世紀末の朝鮮国内の動きに対して、日本と清がどのように関与したか、また朝鮮をめぐって両国が対立するに至った過程について理解する。	(3)18世紀の日本やその他のアジアにおける経済活動や社会の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを考察し表現して、アジアの経済と社会を、主体的に理解している。	
	7	2 帝国主義と列強の展開 3 日露戦争とその影響	日露戦争後の国際関係の変化に留意して、日本が韓国植民地化と満洲支配を進めた経緯を考察する		
第2学期	9	Ⅱ部 国際秩序の変化と大衆化と私たち 5章 第一次世界大戦と大衆社会	バルカン半島の複雑な状況を理解し、その影響と第一次世界大戦の開戦について多面的・多角的に考察する。 国際協調のなかで結ばれた条約の内容を理解し、国際協調のなかで模索されたものは何かを考察する。	(1)第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソビエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。	
	10	6章 経済危機と第二次世界大戦	ファシズム体制の特徴をまとめ、国内外への影響を理解する。 第二次世界大戦がおこった背景を理解し、その後の政治の推移を考察する。	(2)経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較して、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。	
	11	7章 戦後の国際秩序と日本の改革	第二次世界大戦後の国際社会が、どのようにして新たな国際秩序を構築したかを考察する。	(3)第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを考察したり表現したりして、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を主体的に理解している。	
	12				
第3学期	1	8章 冷戦と世界経済 9章 グローバル化する世界	第二次世界大戦後の西ヨーロッパの地位の低下と、各国の戦後復興の状況を理解する。 ゴルバチョフが主導したペレストロイカと呼ばれるソ連の社会主義体制の抜本的な改革の過程について理解するとともに、改革の実施にもかかわらずソ連が崩壊した理由について考察	(1)冷戦と国際関係、人と資本の移動、高度情報通信、食料と人口、資源・エネルギーと地球環境、感染症、多様な人々の共存などに関する資料から情報を読み取ったりまとめたりする技能を身に付けている。	
	2	10章 現代の課題	地域紛争やテロ、難民に対する排外主義の問題について、その要因を理解し、どのように対応していけばよいかを考察する。	(2)冷戦の変容と終結の背景、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、冷戦終結後の国際政治の特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。	
	3			(3)地域紛争と冷戦の関係、欧米とソビエト連邦の政策転換の要因などを考察したり表現したりして、国際政治の変容を主体的に追求している。	

教科・科目		学年	単位数	教科書	補助教材
公民科 公共		1学年	2	公共(実教出版)	テーマ別資料 公共2022(とうほう) 新公共要点ノート(啓隆社)
教科科目 目標	人間と社会の在り方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。				
観点別 目標	(1)知識・技能	現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。			
	(2)思考・判断・表現	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。			
	(3)主体的に学習に取り組む態度	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。			
評価方法					
学期	月	学習内容(内容のまとめ、章)	学習目標		観点別評価基準
第1学期	4	第1部 公共の扉 第1章 社会を作る私たち 第2章 人間としてよく生きる	・社会に参画する自立した主体となるために、青年期を生きるうえで、何を考え行動すればよいかを理解する。 ・選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解する。 ・人間としての在り方生き方に関わる諸資料から、よりよく生きる行為者として活動するために必要な情報を収集し、読み取る技能を身に付ける。 ・人間の尊厳と平等、個人の尊重、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理について理解する。 ・公共的な空間における基本的原理について、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現する。		(1)選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方を理解しており、人間の尊厳と平等、個人の尊重、自由・権利と責任・義務など、公共的な空間における基本的原理についての知識を身に付けている。 (2)公共的な空間における基本的原理について、個人と社会との関わりにおいて多面的・多角的に考察し、表現することができる。 (3)よりよい社会の実現を視野に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して、社会に参画する自立した主体についての自覚を深めようとしている。
	5	第3章 他者とともに生きる			
	6	第4章 民主社会の倫理			
	7	第5章 民主国家における基本原理			
第2学期	9	第2部 よりよい社会の形成に参加する私たち 1 現代の民主政治と日本国憲法 第1章 日本国憲法の基本的性格	・法や規範の意義及び役割などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、憲法のもとで権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解する。 ・政治参加と公正な世論の形成などに関わる現実社会の事柄や課題を基に、よりよい社会は、憲法の下、個人が議論に参加し、意見や利害の対立状況を調整して合意を形成することなどを通して築かれるものであることについて理解する。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。		(1)憲法のもとで権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が形成、維持されていくことについて理解し、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 (2)自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現している。 (3)よりよい社会の実現を視野に、現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
	10	第2章 日本の政治機構と政治参加			
	11				
	12	2 現代の経済社会と国民生活 第1章 現代の経済社会			
第3学期	1	第2章 日本経済の特質と国民生活	・公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。 ・現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付ける。 ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現する。		(1)公正かつ自由な経済活動を行うことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解し、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 (2)自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら、その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを、論拠をもって表現できる。 (3)よりよい社会の実現を視野に、現実社会の事柄や課題といった現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
	2				
	3				

教科・科目		学年	単位数	教科書	補助教材
数学Ⅰ		1	2	高等学校 数学Ⅰ (数研出版)	サクシード数学Ⅰ+A (数研出版)
教科科目 目標	数と式、図形と計量、2次関数およびデータの分析について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。				
観点別 目標	(1)知識・技能	数と式、図形と計量、2次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。			
	(2)思考・判断・表現	命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表し、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。			
	(3)主体的に学習に取り組む態度	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。			
評価方法	定期考査、課題、小テスト				
学期	月	学習内容(内容のまとまり、章)	学習目標	観点別評価標準	
第1学期	4	第1章 数と式 第1節 式の計算 第2節 実数 第3節 1次不等式	・式を、目的に応じて1つの文字に着目して整理したり、1つの文字におき換えたりするなどして既に学習した計算の方法と関連付けて、多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を養う。 ・中学校までに取ってきた数を実数としてまとめ、数の体系についての理解を深める。その際、実数が四則演算に関して閉じていることや、直線上の点と1対1に対応していることなどについて理解するとともに、簡単な無理数の四則計算ができるようになる。 ・不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察したり、具体的な事象に関連した課題の解決に1次不等式を活用したりする力を培う。	(1) ・数を実数まで拡張する意義を理解するとともに、簡単な無理数の四則計算をすることがができる。 ・2次の乗法公式や因数分解の公式を適切に用いて計算をすることが出来る。 ・不等式の解の意味や不等式の性質について理解するとともに、1次不等式の解を求めることができる。 (2) ・問題を解決する際に、既に学習した計算の方法と関連付けて、式を多面的に捉えたり目的に応じて適切に変形したりすることが出来る。 ・1次方程式を解く方法や不等式の性質を基に1次不等式を解く方法を考察することが出来る。 ・日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、1次不等式を問題解決に活用することが出来る。 (3) ・事象を数と式の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、評価・改善したりしようとする。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	
	5				
	6	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 第2節 2次関数と値の変化	・2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解するとともに、2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察する。 ・2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようになる。	(1) ・2次関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。 ・2次関数の最大値や最小値を求めることができる。 ・2次方程式の解と2次関数のグラフとの関係について理解している。 (2) ・2次関数の式とグラフとの関係について、コンピュータなどの情報機器を用いてグラフをかくなどして多面的に考察することが出来る。 ・二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることが出来る。 (3) ・事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、評価・改善したりしようとする。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	
	7	第5章 データの分析	データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力、不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりする力を養う。	(1) ・分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解している。 ・コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすることが出来る。 ・具体的な事象において仮説検定の考え方を理解している。 (2) ・データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察することが出来る。 ・目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現することが出来る。 ・不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすることが出来る。 (3) ・事象をデータの分析の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、評価・改善したりしようとする。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	
		第2章 集合と論理	集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。	(1)集合と命題に関する基本的な概念を理解している。 (2)集合の考えを用いて命題を論理的に考察し、簡単な命題の証明をすることが出来る。	
第2学期	9	第3章 2次関数 第3節 2次不等式	・2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができるようになる。	(1) 2次不等式の解と2次関数のグラフについて理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求めることができる。 (2) 二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることが出来る。 (3) ・事象を2次関数の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、評価・改善したりしようとする。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	
	10	第4章 図形と計量 第1節 三角比 第2節 三角形への応用	・三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。 ・図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象や社会の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決したりする力を培う。	(1) ・鋭角の三角比の意味と相互関係について理解している。 ・三角比を鈍角まで拡張する意義を理解している。 ・鋭角の三角比の値を用いて鈍角の三角比の値を求める方法を理解している。 ・正弦定理や余弦定理について三角形の決定条件や三平方の定理と関連付けて理解している。 (2) ・正弦定理や余弦定理などを用いて三角形の辺の長さや角の大きさなどを求めることができる。 ・図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現し、定理や公式として導くことができる。 ・図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりすることが出来る。 (3) ・事象を図形と計量の考えを用いて考察するよさを認識し、問題解決にそれらを活用しようとし、粘り強く考え数学的論拠に基づき判断しようとし、評価・改善したりしようとする。 ・問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとしている。	
	11				
	12				
	第3学期	1			
	2				
	3				

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
理科 化学基礎	2年	2単位	化学基礎改訂版 (化基 318) (啓林館)	文系：リード Light 化学基礎(数研出版) 理系：セミナー化学基礎(第一学習社) スクエア最新図説化学(第一学習社)
科目の概要と目標	1. 化学が人間生活に果たしている役割を理解できる。 2. 原子の構造及び電子配置と周期律の関係を理解できる。 3. 化学反応の量的関係、酸と塩基の反応及び酸化還元反応の基本的な概念や法則が理解できる。 4. 探究活動を行い、学習内容を深めるとともに、科学的に考察する態度と能力を育成する。			
単 元	学習内容		到達度目標	
序章 化学と人間生活	化学と人間生活 生活の中の化学の役割		・化学とその役割に関する具体的物質や社会との関連、歴史に関心や探究心をもって意欲的に取り組むとともに、科学的態度を身に付けている。	
第1部 物質の構成 1章 物質の構成	純物質と混合物 物質とその成分 粒子の熱運動と物質の三態		・物質の分類や化学の生活の中の役割を、積極的に探究しようとする。 ・物質の構造・状態・成分や性質に関心を持ち、意欲的に物質を探究しようとする。	
2章 物質の構成粒子	原子の構造と電子配置 イオン 元素の周期表		・物質の構成粒子としての原子の構造および電子配置の規則性について関心を持ち、そのことが原子の性質についてどのように関連しているか、またイオンの生成について意欲的に探究しようとする。 ・元素の性質を電子配置に基づいて考えることに関心を持ち、元素の周期律と周期表による整理に関して意欲的に探究しようとする。	
3章 化学結合	イオン結合 共有結合 金属結合 物質の分類と融点		・イオン結合の仕組みについて関心を持ち、イオン結晶やイオン化エネルギー等についても意欲的に探究しようとする。 ・分子の生成と共有結合の仕組みについて関心を持ち、配位結合、電気陰性度、結合の極性等についても意欲的に探究しようとする。	
第2部 物質の変化	原子量・分子量・式量 物質質量 化学反応式と化学変化の量的関係		・相対質量としての原子量、分子量、式量を理解し、基準となる ^{12}C や同位体の存在比の扱い等について意欲的に探究しようとする。 ・原子や分子の量としての物質質量について関心を持ち、アボガドロ数、モル質量、溶液の濃度等について意欲的に探究しようとする。	
2章 酸と塩基	酸と塩基 水の電離とpH 酸・塩基の中和と塩		・酸と塩基の異なる定義や性質について関心を持ち、分類に関する価数、強弱、具体的な酸と塩基について意欲的に探究しようとする。 ・水素イオン濃度の目安としてのpHについて関心を持ち、その定義や具体的な数値、身近な物質のpHについて意欲的に探究しようとする。	
3章 酸化還元反応	酸化と還元 酸化剤と還元剤 金属の酸化還元反応 酸化還元反応と人間生活		・酸化還元反応について関心を持ち、電子の授受や酸化数の観点で具体的な酸化剤や還元剤のはたらきについて意欲的に探究しようとする。 ・金属のイオン化傾向について関心を持ち、空気中での反応、水や酸との反応について意欲的に探究しようとする。	

教科・科目		学年	単位数	教科書	補助教材
理科 生物基礎		1年	2単位	生物基礎 (生基707) (数研出版)	リードα 生物基礎 (数研出版)
教科科目 目標	日常的な生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、観察、実験などを通して、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
観点別 目標	(1)知識・技能		日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象について理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。		
	(2)思考・判断・表現		観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。		
	(3)主体的に学習に取り組む態度		生物や生物現象に関わり、科学的に探究しようとする態度と、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度を養う。		
評価方法	定期考査実験実習の取り組みおよびレポート、課題(問題演習、小テスト)				
学期	月	学習内容(内容のまとまり、章)	学習目標	観点別評価規準	
第1学期	4	1. 顕微鏡観察の基本操作 2. ミクロメーターによる測定	・実験・観察を通して顕微鏡やマイクロメーターの使い方を理解し、適切に使用することができる。	(1)生体や生態を構成する構造物や物質の特徴や、呼吸や光合成などの代謝、遺伝情報の発現の仕組みを理解しているとともに、観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	
	5	第1章 生物の特徴 1. 生物の多様性と共通性	・生物の共通性を起源の共有と関連付けて理解する。	(2)生体や生態を構成する構造物や物質の構造や特徴について、観察、実験などを通して探究し、光合成や呼吸、遺伝情報の発現などの生物現象との関係性を見出して表現している。	
	6	2. エネルギーと代謝 3. 呼吸と光合成 第2章 遺伝子とそのはたらき 1. 遺伝情報とDNA	・生命活動にはエネルギーが必要であり、光合成や呼吸などの代謝とATPを関連付けて理解する。 ・遺伝情報を担う物質としてのDNAの特徴と構造を理解する。	(3)生物や、光合成や呼吸などの代謝、遺伝情報の発現などの生物現象に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
	7	2. 遺伝情報の複製と分配 3. 遺伝情報の発現	・DNAの相補性と複製を関連付けて理解する。 ・DNAの遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解する。		
第2学期	9	第3章 ヒトの体内環境の維持 1. 体内環境での情報伝達と調節	・体内環境の調節に関する観察、実験を通して、体内の情報の伝達が体の調節に関係していることを理解する。	(1)体内環境の調節について、情報の伝達や体内環境の維持の仕組みの基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	
	10	2. 体内環境の維持のしくみ	・体内環境の維持とホルモンの働きとの関係を理解する。 ・体内環境の維持を自律神経と関連付けて理解する。	(2)体内環境の調節について、観察、実験などを通して探究し、神経系と内分泌系による調節の特徴や免疫のはたらきと病気の関係などを見出して表現している。	
	11	3. 免疫のはたらき	・自然免疫・適応免疫のしくみや免疫記憶のしくみとそれにはたらく細胞の役割を理解する。 ・免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解する。	(3)体内環境の調節に主体的に関わり、見通しをもったり、振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	
	12				
第3学期	1	第4章 生物の多様性と生態系 1. 植生と遷移 2. 植生の分布とバイオーム	・遷移の過程と要因を理解する。 ・植生の遷移をバイオームと関連付けて理解する。	(1)生態系と生物の多様性、生態系のバランスと保全の基本的な概念や原理・法則などを理解しているとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技能を身につけている。	
	2	3. 生態系と生物の多様性 4. 生態系のバランスと保全	・生態系と生物の多様性に関する観察、実験を通して、生態系における生物多様性を理解する。 ・生物の種多様性と生物間の関係性を関連付けて理解する。 ・生態系のバランスと人為的攪乱を関連付けて理解する。	(2)生態系とその保全について、観察、実験などを通して探究し、生態系における、生物の多様性及び生物と環境との関係性を見出して表現している。	
	3		・生態系の保全の重要性を認識する。	(3)生態系とその保全に主体的に関わり、見通しをもったり振り返ったりするなど、科学的に探究しようとしている。	

教科・科目		学年	単位数	教科書	補助教材
理科 物理基礎		1年	2単位	高等学校 物理基礎 (啓林館)	ステップアップノート物理基礎(啓林館) セミナー物理基礎(第一学習社)
教科 科目 目標	物体の運動と様々なエネルギーに関わり、理科の見方・考え方を働かせ、見通しをもって観察、実験を行うことなどを通して、物体の運動と様々なエネルギーを科学的に探究するために必要な資質・能力を育成することを目指す。				
観点別 目標	(1)知識・技能		日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。		
	(2)思考・判断・表現		観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。		
	(3)主体的に学習に取り組む態度		物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養う。		
評価方法	定期考査、実験実習の取り組みおよびレポート、課題(問題演習、小テスト)				
学期	月	学習内容(内容のまとまり、章)	学習目標		観点別評価基準
第1学期	4	第1部 物体の運動とエネルギー 第1章 物体の運動	・物体の運動の基本的な表し方について、直線運動を中心に理解する。 ・物体が直線上を運動する場合の加速度を理解する。 ・物体が落下する際の運動の特徴および物体にはたらく力と運動の関係について理解する。		(1) 物体の運動とエネルギーを日常生活や社会と関連付けながら、運動の表し方、様々な力とその働き、力学的エネルギーにおける規則性や関係性を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。
	5				
	6	第2章 力と運動	・物体にはたらく力のつり合いを理解する。 ・運動の三法則を理解する。 ・様々な力がはたらくときの物体の運動を理解する。		(2) 物体の運動とエネルギーについて、観察、実験などを通して探究し、運動の表し方、様々な力とその働き、力学的エネルギーにおける規則性や関係性を見いだして表現している。
	7				
第2学期	9	第3章 仕事とエネルギー	・物理における仕事とは何かを理解する。 ・運動エネルギーについて、仕事と関連づけて理解する。 ・位置エネルギーについて、仕事と関連づけて理解する。 ・力学的エネルギー保存の法則を仕事と関連づけて理解する。		(3) 日常に起こる物体の運動についての観察、実験などを通して、運動の表し方、様々な力とその働き、力学的エネルギーにおける規則性や関係性を理解しようとする主体的に取り組んでいる。
	10				
	11	第2部 熱 第1章 熱とエネルギー	・熱と温度について、原子や分子の熱運動という視点から理解する。 ・熱とその量及びその移動について理解する。 ・熱と仕事の変換について理解する。		(1) 様々な物理現象とエネルギーの利用を日常生活や社会と関連付けながら、波、熱、電気、エネルギーとその利用における規則性や関係性を理解するとともに、それらの観察、実験などに関する技能を身に付けている。
	12				
第3学期	1	第3部 波 第1章 波の性質 第2章 音	・波の種類と違い、性質、波が伝わる際の媒質の変化を理解する。 ・音の三要素、気柱の共鳴、弦の振動及び音波の性質を理解する。		(2) 様々な物理現象とエネルギーの利用について、観察、実験などを通して探究し、波、熱、電気、エネルギーとその利用における規則性や関係性を見いだして表現している。
	2	第4部 電気と磁気 第1章 静電気と電流 第2章 交流と電磁波	・静電気や電流、電圧、電気抵抗の相互の関係と熱作用を理解する。 ・電磁誘導、電流の種類と電磁波について理解する。		(3) 様々な物理現象についての観察、実験などを通して、波、熱、電気、エネルギーとその利用における規則性や関係性を理解しようとする主体的に取り組んでいる。
	3	第5部 物理と私たちの生活 第1章 エネルギーとその利用 第2章 物理学が拓く世界	・エネルギー資源が、使いやすい形態に変換されるしくみを理解する。 ・学んだ事柄が、日常生活や科学技術と結びついていることを理解する。		

教科・科目	学年	単位数	教科書	補助教材
保健体育 体育	1年	3単位	高等学校保健体育 (第一学習社)	ステップアップ高校スポーツ (大修館書店)
教科科目 目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。			
観点別 目標	(1)知識・技能 運動の合理的、計画的な実施を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解したり、それらの技能を身につけたりしている。 (2)思考・判断・表現 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考判断するとともに、自己や仲間考えたことを他者に伝える力を養う。 (3)主体的に学習に取り組む態度 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に楽しむ態度を養う。			
評価方法	実技テスト、授業の取り組み(準備運動、アップ)			
学期	月	学習内容(内書のままとり、案)	学習目標	観点別評価標準
第1学期	4	A体づくり運動(4~5月)	・体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解するとともに、健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができる。 ・自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ・体づくり運動の学習に自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた動きなどを大切にすることなどに意欲をもつ。健康や安全を確保することができる。	(1) 体を動かす楽しさや心地よさを味わい、運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解している。 (2) 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 (3) 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。
	5	運動体育Ⅰ(5~7月) B器械運動 C陸上競技 E球技 Gダンス	[B器械運動] ・技ができる楽しさや喜びを味わい、運動観察の方法や体力の高め方などを理解するとともに、自己に適した技で演技することができる。 ・技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができるようにすることができる。 ・器械運動の学習に自主的に取り組み、よい演技を演じたことや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。健康や安全を確保することができる。 [C陸上競技] ・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、技能を身に付けることができる。 ・動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えることができる。 ・陸上競技の学習に自主的に取り組み、ルールやマナーを大切にすることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。 [E球技] ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ・球技の学習に自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。 [Gダンス] ・感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方や運動観察の方法などを理解するとともに、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすることができる。 ・表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ・ダンスの学習に自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にすることなどに意欲をもつ。健康・安全を確保することができる。	(1) 技ができる楽しさや喜びを味わい、運動観察の方法や体力の高め方などを理解する。 (2) 自己にに適した技で演技することができる。 (3) 技などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 (4) 器械運動の学習に自主的に取り組み、よい演技を演じたことや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。 (5) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解する。 (6) 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 (7) 自己の考えたことを他者に伝えることができる。 (8) 陸上競技の学習に自主的に取り組み、ルールやマナーを大切にすることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。 (9) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解する。 (10) 作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 (11) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 (12) 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 (13) 球技の学習に自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。 (14) 感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方や運動観察の方法などを理解する。 (15) イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすることができる。 (16) 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 (17) 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 (18) ダンスの学習に自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にすることなどに意欲をもつ。 (19) 健康・安全を確保することができる。
	6		[E球技] ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ・球技の学習に自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。	(1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解する。 (2) 作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 (3) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 (4) 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 (5) 球技の学習に自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。
	7		[Gダンス] ・感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方や運動観察の方法などを理解するとともに、イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすることができる。 ・表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ・ダンスの学習に自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にすることなどに意欲をもつ。健康・安全を確保することができる。	(1) 感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方や運動観察の方法などを理解する。 (2) イメージを深めた表現や踊りを通じた交流や発表をすることができる。 (3) 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 (4) 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 (5) ダンスの学習に自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にすることなどに意欲をもつ。 (6) 健康・安全を確保することができる。
		H体育理論(7月)	[H体育理論] ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての各分野の理解を深めることができる。 ・課題を発見し、よりよい解決に向けて思考判断することができる。 ・学習に自主的に取り組むことができる。	(1) スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解しようとし (2) スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考判断しようとしているとともに、他者に伝 (3) スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組もうとしている。

教科・科目	学年	単位数	教科書	補助教材
保健体育 体育	1年	3単位	高等学校保健体育 (第一学習社)	ステップアップ高校スポーツ (大修館書店)
教科科目 目標	体育の見方・考え方を軸に、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなライフスタイルを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資力・能力を次のとおり育成することを目指す。			
観点別 目標	(1)知識・技能 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解したり、それらの技能を身に付けたりしている。 (2)思考・判断・表現 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考・判断するとともに、自己や仲間考えたことを他者に伝える力を養う。 (3)主体的に学習に取り組む態度 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。			
評価方法	実技テスト、授業の取り組み(準備運動、アップ)			
学期	月	学習内容(内容のまとまり、章)	学習目標	観点別評価標準
第2学期	9	選択体育Ⅱ・Ⅲ(9～12月) C陸上競技 E球技 F武道 Gダンス	【C陸上競技】 ・記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、技能を身に付けることができる。 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ・陸上競技の学習に自主的に取り組み、ルールやマナーを大切にすることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。 【E球技】 ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ・球技の学習に自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。 【F武道】 ・技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開することができる。 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ・武道の学習に自主的に取り組み、相手尊重し、武道の伝統的な行動の仕方を大切にすることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。 【Gダンス】 ・感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方や運動観察の方法などを理解するとともに、イメージを深めた表現や踊りを通して交流や発表をすることができる。 ・表現などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ・ダンスの学習に自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にすることなどに意欲をもつ。	(1) 記録の向上や競争の楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解する。 (2) 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 (3) 自己の考えたことを他者に伝えることができる。 (4) 陸上競技の学習に自主的に取り組み、ルールやマナーを大切にすることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。 (5) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解する。 (6) 作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 (7) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 (8) 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 (9) 球技の学習に自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。 (10) 技を高め勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、伝統的な考え、技の名称や見取り稽古の仕方、体力の高め方などを理解する。 (11) 基本動作や基本となる技を用いて攻防を展開することができる。 (12) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 (13) 自己の考えたことを他者に伝えることができる。 (14) 武道の学習に自主的に取り組み、相手尊重し、武道の伝統的な行動の仕方を大切にすることや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。 (15) 健康や安全を確保することができる。 (16) 感じを込めて踊ったり、みんなで自由に踊ったりする楽しさや喜びを味わい、踊りの特徴と表現の仕方や運動観察の方法などを理解する。 (17) イメージを深めた表現や踊りを通して交流や発表をすることができる。 (18) 表現などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 (19) 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 (20) ダンスの学習に自主的に取り組み、互いに助け合い教え合うことや一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にすることなどに意欲をもつ。 (21) 健康・安全を確保することができる。
	10			
	11			
第3学期	1	選択体育Ⅳ(1・2月) E球技	【E球技】 ・勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 ・攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 ・球技の学習に自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。	(1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解する。 (2) 作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができる。 (3) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫する。 (4) 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができる。 (5) 球技の学習に自主的に取り組み、作戦などについての話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもつ。
	2			
	3	H体育理論(3月)	【H体育理論】 ・スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての各分野の理解を深めることができる。 ・課題を発見し、よりよい解決に向けて思考・判断することができる。 ・学習に自主的に取り組むことができる。	(1) スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解しようとし (2) スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考・判断しようとしているとともに、他者に伝え (3) スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組もうとしている。

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
保健体育 体育	2年	2単位	高等学校保健体育 (第一学習社)	ステップアップ高校スポーツ (大修館書店)
科目の概要と目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、健康・安全に留意し、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通して継続的に運動する態度や能力を育てる。 (1) 学習規律の確立 (2) 運動の学び方の育成 (3) 体力の向上			
(各領域) 単元	学習内容		到達度目標	
(体づくり運動) 体ほぐしの運動 体力を高める運動	新体力テスト 体の動きを高める運動 パートナーストレッチ サーキットトレーニング		・自己の体に関心を持ち、自己の体力や生活に応じた課題をもって運動を行い、体をほぐしたり、体力を高めたりするとともに、これらの運動を生活の中で実践できるようになる。 ・体づくり運動に対する関心や意欲を高めるとともに、互いに協力して運動ができるようになる。	
(球技) ラグビー サッカー バスケットボール バレーボール 卓球 バドミントン テニス ソフトボール	個人技能 集団技能 審判法 ゲーム		・チームの課題や自己の能力に応じて技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 ・チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになるとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームができるようになる。	
(陸上競技) 走運動 跳運動	短距離走 ハードル走 走り幅跳び 記録会		・互いに協力して練習や競技ができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習や競技ができるようになる。 ・自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方や競技の仕方を工夫することができるようになる。また、競技会の企画や運営ができるようになる。	
(武道) 柔道 剣道	礼法 基本動作 応用動作 審判法 試合		・伝統的な行動の仕方に留意して、互いに相手を尊重し、練習や試合ができるようになるとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。 ・自己の能力に応じた技を習得するための計画的な練習の仕方や試合の仕方を工夫できるようになる。	
(ダンス) 創作ダンス	作品づくり 発表会		・グループの課題や自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方や発表の仕方を工夫することができるようになる。 ・心身の開放を図り、課題からのイメージを大切に動きづくりができるようになる。感情を込めて踊ったり、みんなと楽しく踊り、交流し発表することができるようになる。	
(体育理論) 運動の学習方法	運動のしくみ 運動と体力の高め方		・運動技能を構造的に理解するとともに、その上達過程と上達の程度を把握する方法を理解する。また、自己の能力に応じて運動技能を高める運動など、運動に親しむための学び方について理解する。	

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
保健体育 体育	3年	3単位	高等学校保健体育 (第一学習社)	ステップアップ高校スポーツ (大修館書店)
科目の概要と目標	各種の運動の合理的な実践を通して、運動技能を高め運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにするとともに、体の調子を整え、体力の向上を図り、健康・安全に留意し、公正・協力・責任などの態度を育て、生涯を通して継続的に運動する態度や能力を育てる。 (1) 学習規律の確立 (2) 運動の学び方の育成 (3) 体力の向上			
(各領域) 単元	学習内容		到達度目標	
(体づくり運動) 体ほぐしの運動 体力を高める運動	新体力テスト 体の動きを高める運動 パートナーストレッチ サーキットトレーニング		・体づくり運動に対する関心や意欲を高めるとともに、互いに協力して運動ができるようになる。 ・自己の体力や生活に応じて、体ほぐしの行い方と体力の高め方を実践的に工夫できるようになる。	
☐ 選択種目 ☐ ラグビー サッカー バスケットボール バレーボール 卓球 バドミントン テニス ソフトボール 柔道 剣道 ダンス 器械運動 他	個人技能 集団技能 審判法 ゲーム		・チームの課題や自己の能力に応じて技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようになる。 ・チームにおける自己の役割を自覚して、その責任を果たし、互いに協力して練習やゲームができるようになるとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習やゲームができるようになる。 ・現代的な音楽のリズムの特性を生かし、リズムに乗りながら、動きの多様性を考え、工夫し、踊ることができるようになる。 ・チームの課題や自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方やゲームの仕方を工夫することができるようになる。また、競技会の企画や運営ができるようになる。	
(陸上競技) 走運動	短距離走 リレー		・互いに協力して練習や競技ができるようにするとともに、勝敗に対して公正な態度がとれるようになる。また、練習場などの安全を確かめ、健康・安全に留意して練習や競技ができるようになる。 ・自己の能力に応じた課題の解決を目指して、計画的な練習の仕方や競技の仕方を工夫することができるようになる。また、競技会の企画や運営ができるようになる。	
(体育理論) 豊かなスポーツライフのために	生活のなかのスポーツ スポーツ振興と自然環境		・卒業後においても、自分に適した生涯にわたる豊かなスポーツライフを設計していくために、各ライフステージやライフスタイルに応じたスポーツへのかかわり方の特徴や条件があることを理解する。 ・無理なくスポーツを継続するための計画を立てることと、生涯スポーツの実践を支える環境を確保するためのスポーツ振興に向けた施策や条件、スポーツが及ぼす環境への影響に配慮することなどがあることについて理解する。	

教科・科目		学年	単位数	教科書	補助教材
保健体育 保健		1年	1単位	高等学校保健体育 (第一学習社)	なし
教科科目 目標	保健の見方・考え方を働かせ、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。				
観点別 目標	(1)知識・技能	個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。			
	(2)思考・判断・表現	健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。			
	(3)主体的に学習に取り組む態度	生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。			
評価方法	定期考査、授業の取り組み、課題(ノート、プリント)				
学期	月	学習内容(内容のまとまり、章)	学習目標	観点別評価規準	
第1 学期	4	第2章 安全な社会生活 第1節 安全な社会づくり	・事故の現状と発生要因、安全な社会の形成、交通安全について理解することができる。 ・事故の現状と発生要因、安全な社会の形成、交通安全について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。 ・事故の現状と発生要因、安全な社会の形成、交通安全についての学習に自主的に取り組むことができる。	(1) ・安全な社会生活について理解を深める。 ・応急手当を適切に行うことができる。	
	5	第2節 応急手当	・応急手当の意義、日常的な応急手当、心肺蘇生法について理解することができる。 ・応急手当の意義、日常的な応急手当、心肺蘇生法について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。 ・応急手当の意義、日常的な応急手当、心肺蘇生法についての学習に自主的に取り組むことができる。	(2) 安全な社会生活について、安全に関する原則や概念に着目して危険の予測やその回避の方法を考え、それらを表現することができる。	
	6			(3) 安全な社会生活についての学習に自主的に取り組むことができる。	
	7				
第2 学期	9	第1章 現代社会と健康 第1節 健康の考え方 第2節 現代の感染症とその予防 第3節 生活習慣病などの予防と回復 第4節 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康 第5節 精神疾患の予防と回復	・国民の健康課題や健康の考え方、健康の保持増進について理解することができる。 ・現代社会と健康について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 ・国民の健康課題や健康の考え方、健康の保持増進についての学習に自主的に取り組むことができる。	(1) 以下の点について、理解している。 ・国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること。 ・健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること。 ・健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び ・感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること。 ・予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があること。	
	10		・感染症とその予防について理解することができる。 ・感染症とその予防について、課題を発見し、健康や安全に関する原則や概念に着目して解決の方法を思考し判断するとともに、それらを表現することができる。 ・感染症とその予防についての学習	(2) ・現代社会と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。 ・感染症とその予防に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。	
	11			(3) ・国民の健康課題や健康の考え方、健康の保持増進についての学習に自主的に取り組んでいる。 ・感染症とその予防についての学習に自主的に取り組んでいる。	
	12				
第3 学期	1				
	2				
	3				

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
保健体育 保健	2年	1単位	高等学校保健体育 (第一学習社)	なし
科目の概要と目標	・健康・安全に関する基礎的知識・基本的事項を理解し総合的な認識を高める。 ・自らの健康課題に気づき、その解決に向け、思考、判断できる能力を身につける。 ・主体的で対話的な活動を通じ、生涯を通じて健康で安全な生活を送るために、個々のライフスタイルやライフステージに応じた的確な意志決定ができる。			
単元	学習内容	到達度目標		
第2章 生涯を通じる健康 第1節 生涯の各段階における健康 1 人生の各段階の健康	・人生の各段階とは ・青年期の健康の危険因子 ・健康の危険因子を避けるために	・生涯の各段階の特徴や健康の危険因子を理解することで、自らの身体に対する注意を深める。 ・心身ともに、そして社会的にも健康的に生活するために、生涯の各段階で注意することを知り、実践する。		
2 思春期の心の成長	・思春期の心の成長 ・男女の性意識の違い ・責任ある行動をするために	・思春期の心身の発達・成長の特徴を理解し、心身共に健康に過ごすための課題を見いだす。 ・思春期の性に対する男女の意識や行動の違いを理解し、互いに尊重しながらよりよい人間関係を築いていけるようにする。		
3 思春期のからだの成長	・男性のからだの発達 ・女性のからだの発達	・思春期に起こる身体の変化とその仕組みを知る。 ・男性と女性のそれぞれの生殖器官についての理解を深める。		
4 結婚生活と健康	・結婚とは ・健康な結婚生活のために ・家族と健康	・結婚という制度についての理解を深め、現代の平均初婚年齢を知ること、男女の意識の変化について考えてみる。 ・結婚前のお互いの健康状態を知ることの重要性や、家族の役割について理解を深める。		
5 新しい生命の誕生	・受精から妊娠へ ・出産 ・母子の健康を守る	・受精から妊娠までの経過を胎児の成長と母胎の状況と関連させて理解できるようになる。 ・母子の健康保持のための保健サービスについて理解する。		
6 幸せで健康な家庭づくり	・家族計画と避妊 ・人工妊娠中絶 ・人工授精・体外受精	・家族計画についての理解を深める。 ・避妊法に関する理解を深めるとともに、人工妊娠中絶のリスクを知り、不妊治療に関する理解を深める。		
7 一生を通じての健康	・加齢とは ・壮年期以降の健康課題 ・健やかな高齢社会	・加齢による心身機能の変化について形態面・機能面から理解し、自己管理の大切さを理解する。 ・健やかな高齢社会を迎えるために、若い世代とともに経済や地域を支えていく社会や意識が必要であることを理解する。		
8 豊かな高齢社会の実現	・高齢社会の現状 ・高齢社会における取り組み	・わが国の高齢社会の現状と特徴を理解する。 ・高齢社会を健康に生きるための社会の取り組みについて理解する。		
第2節 保健医療制度および地域の保健・医療機関 1 わが国の保健医療制度	・保健行政 ・医療制度 ・医療施設と医療専門機関	・国民の健康の保持増進を図る行政の活動を理解する。 ・相互扶助を精神とした皆保険制度について、その目的や制度について理解を深める。		

2 保健・医療機関の活用	・地域にある保健機関 ・医療機関の利用 ・救急医療体制	・身近な医療機関としての保健所と保健センターの役割について知る。 ・現代の医療の現状と課題を理解する。
第3章 社会生活と健康	・生命の誕生と環境・環境汚染の広がりと集中・公害対策から環境保全へ	・地球誕生から現在に至るまでの地球環境の変化は、長い時間をかけて進むプロセスであることを理解する。 ・環境問題が特定の地域だけでなく、広範囲に広がってきていることを理解する。
第1節 環境と健康		
1 環境と健康		
2 大気と健康	・大気汚染の原因 ・大気汚染による健康影響 ・大気汚染対策	・大気汚染を防ぐために設けられた、発生源対策の法律や規制を理解し、個人レベルで環境への影響を考慮しなければならないことを理解する。
3 水と健康	・命のみならず「水」・水の汚染・水質汚濁を防ぐために	・私たちの生活の中で欠かすことのできない水の現状について知り、水の汚染によって、どのような健康被害が起こっているかを知る。
4 土と健康	・土壌とは ・土壌汚染を防ぐために	・土壌が私たちの生活の中で果たしている役割を知り、水を介した汚染の純化についても理解を深める。
5 産業廃棄物と汚染物質	・産業廃棄物とは ・産業廃棄物処理問題	・産業活動によってもたらされる産業廃棄物とは何かを知る。 ・化学物質による環境汚染を防ぐためにどのような対策がとられているかについて知る。
6 地球環境と健康	・地球環境問題 ・子どもたちの将来のために	・地球環境の問題は、直接的にその変化を体験的に実感することが困難である。科学的データに基づいた客観的な理解を深めることが大切であることを知る。
第2節 環境と食品の保健	・上水道と下水道 ・ゴミ処理	・上下水道の整備の現状を知る。 ・ライフスタイルと、環境衛生活動が密接につながりがあることを理解する。
1 環境衛生活動		
2 食品衛生活動	・食品による健康被害 ・食品衛生管理 ・健康被害を防ぐための行動	・食中毒や食品汚染、食品添加物など、食品が原因で起こる健康被害について理解し、日常生活の中で自分たちができることは何かを考えさせる。
3 労働と健康	・労働の意味 ・労働者の健康づくり ・労働者の健康生活	・労働者が安心して意欲的に労働に従事できるための仕組みはどのようなになっているのか。また、労働と健康は、どのように関わり合っているのかを理解する。
第3節 労働と健康	・労働の意味 ・労働者の健康づくり ・労働者の健康生活	・労働者の心と体の健康づくりのために行われている対策を理解し、労働者が生き甲斐を感じられる健康な生活を送るには、どうすればよいか考える。
1 労働と健康		
2 労働による職業病	・職業病とは ・職業病の原因 ・職業病の予防	・職業病とは、どのような種類があるのかを知り、原因とは何なのかを知る。
3 労働による傷害	・労働による傷害の実態 ・労働による傷害の防止	労働事故による被災者数の動向や、業種など、わが国の労働災害の実態を理解し、労働災害の発生状況や事故原因から、労働災害を防止するためには何が必要であるかを考える。
4 職場の健康・安全づくり	・労働者の健康・安全を守るしくみ ・職場と社会の健康・安全 ・健康・安全の意識と行動	・労働者の健康・安全を守るために、どのような法律があり、職場でどのような活動がされているか理解させる。 ・労働者の健康・安全のために、労働者自身はどのような努力をするべきであるか理解する。

教科・科目		学年	単位数	教科書	補助教材
芸術 書道Ⅰ		1年	2単位	書Ⅰ (光村図書出版)	各種プリント
教科 科目 目標	書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。				
観点別 目標	(1)知識・技能	書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。			
	(2)思考・判断・表現	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようになる。			
	(3)主体的に学習に取り組む態度	主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。			
評価方法	作品、プリント、仮名の字母テスト、授業態度				
学期	月	学習内容(内容のまとまり、章)	学習目標	観点別評価規準	
第1学期	4	書道で学習すること 書写から書道へ 【漢字の書】 ●楷書 ・漢字の変遷とさまざまな書体 ・孔子廟堂碑 ・九成宮醴泉銘 ・雁塔聖教序 ・顔氏家廟碑 ・北魏の書 ・唐の四大家について(鑑賞)	書道の三分野と、臨書・鑑賞・創作の学習方法を理解する。 日本及び中国等の文字と書の伝統と文化、漢字の書体の変遷、各書体に特有の字形や線質の特徴について理解する。 楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身に付ける。	楷書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身に付けている。 主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
	5				
	6				
	7	篆刻(姓名印制作)	印の用途や押印したときの表現効果を考慮して、作品を構想することができる。	篆刻制作の手順を理解し、選文・換字や布字、運刀に関する知識や技法を理解している。 篆刻に関心をもち、主体的に制作に取り組んでいる。	
第2学期	9	●行書 ・蘭亭序 ・風信帖 ・古典を生かした創作	行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身に付ける。 漢字の古典の書体や書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	行書の古典に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質、字形や構成を生かした表現を身に付けている。 主体的に漢字の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
	10			漢字の古典や創作作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	
	11	【仮名の書】 ・仮名の成立と種類(鑑賞) ・仮名の筆使い ・平仮名 ・変体仮名 ・連綿 ・蓬萊切 ・継色紙 ・寸松庵色紙 ・升色紙	仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身に付ける。	仮名の古筆に基づく基本的な用筆・運筆の技能、線質や字形を生かした表現をするための技能を身に付けている。 主体的に仮名の書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
	12	・古筆を生かした制作	仮名の古筆の書風に即した用筆・運筆、字形、全体の構成について構想し工夫する。	仮名の古筆や創作作品の価値とその根拠について考え、書のよさや美しさを味わって捉えている。	
第3学期	1	【漢字仮名交じりの書】 テーマ「今の自分を見つめてみよう」を書く	漢字と仮名の調和した字形、文字の大きさ、全体の構成、目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現、名筆を生かした表現や現代に生きる表現について構想し工夫する。	目的や用途に即した効果的な表現、漢字と仮名の調和した線質による表現の技能を身に付けている。 主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い表現の学習活動に取り組もうとしている。	
	2				
	3	鑑賞 ・漢字仮名交じりの書 作品鑑賞会	作品を鑑賞し合い、学習の成果を交流する。	主体的に漢字仮名交じりの書の幅広い鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	

教科・科目		学年	単位数	教科書	補助教材	担当者	
芸術・音楽		1	2	ON11	Music Note	杉山 和代	
教科科目 目標	音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる 資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					実施クラス	
						11～14H	
観点別 目標	(1)知識・技能 ※「知識」と「技能」とに整理し、二つに わけて示している。	・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。					
	(2)思考・判断・表現	・音楽を形づけている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの動きを感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考 え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。					
	(3)主体的に学習に取り組む態 度	・主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。					
評価方法 演奏の聴取、追求途中の表現、意見発表やプレゼンテーション、グループでの話し合いでの発言、活動時の観察、自己評価や相互評価、ノート、ワークシート							
学期	月	学習内容(内容のまとまり、章)	学習目標	観点別評価規準			
第1学期	4	A表現(1)歌唱 「豊かな響きで歌おう」	・曲想と音楽の構造や歌詞との関 わりについて理解を深め、歌唱 に対する意識をもち、発声の基本 や視覚(読譜)の力を育みながら、 楽曲に合った歌唱法の工夫をする。	【知】曲想と歌詞との関わりについ て理解している。 【技】創意工夫を生かした歌唱表現 をするために必要な、楽曲にふさ わしい発声、言葉(歌詞)の発音な どの技能を身につけている。	・旋律や声の音色を理解して、ど のよう に歌唱表現するかについて表 現意図をもっている。	・曲にふさわしい発声に関心をもち、 主体的・協働的に歌唱の活動 に取り組もうとしている。	
	5	A表現(1)歌唱 「日本や海外の歌曲に親し み、表現を工夫して独唱しよう」	・曲想と音楽の構造や歌詞、文化 的・歴史的背景との関わりを理 解し、曲にふさわしい発声、言葉 の発音、身体を使い方などの技能 を身に 付けて表現を工夫して歌う。	【知】曲想と音楽の構造や歌詞、文 化的・歴史的背景との関わり について理解している。 【技】創意工夫を生かした歌唱表 現をするために必要な、曲にふ さわし い発声、言葉の発音、身体 の使い 方などの技能を身に付け、歌 唱で表 している。	・音色、リズム、速度、旋律、テク スチュア、強弱、形式、構成を知 覚し、そ れらの動きを感じながら、知覚した ことと感 受したことの関わりについて考え、ど のよう に歌うかについて表現意図をも っている。	・曲想と音楽の構造や歌詞、文化 的・歴史的背景との関わりに関心 をもち、主体的・協働的に歌唱の 学習活動に取り組もうとしてい る。	
	6						
	7	B鑑賞 「日本音楽の魅力」	・長唄の特徴を理解し、音楽表現 の共通性や固有性について考え、 音楽のよさや美しさを自ら味わっ て鑑 賞するとともに、我が国の伝統的な 音楽に 親しむ心 情を養う。	【知】長唄や歌舞伎舞踊の特徴 と文化的・歴史的背景について 理解している。	・音色やテクスチュアを知覚し、そ れらの 動きを感じながら、音楽表現の共 通性や 固有性について考え、音楽のよさ や美し さを自ら 味わって 聴いている。	・日本の伝統的な音楽に関心を もち、主体的・協働的に鑑賞の活 動に 取り組もうとしている。	
第2学期	9	A表現(2)音楽 「ヴォイス・アンサンブルやボ ディ・パーカッションに挑戦し よう」	・それぞれの楽器の演奏する役割 や曲想 と音色や奏法との関わりを理 解し、 曲にふさわしい奏法、身体 の使い 方などの技能を身に付けると ともに、 他者と協調しながらイ メージ をもって表現を工夫して演奏 する。	【知】曲想と楽曲の構造との関わり について理解している。 【技】創意工夫を生かした音楽表 現を するた めに必要 な、曲に ふさわ しい奏 法、身 体 の 使 い 方 な ど の技能、 及び他 者との 調和を 意識し て演奏 する技 能を身 に付け、 音楽で 表現し ている。	・音色、リズム、速度、強弱、構成 を知覚 し、そ れらの 動きを 感じな がら、 知覚し たこと と感受 したこ との関 わり につい て考え、 どのよ うに 演奏す るかにつ いて表 現意図 をも っている。	・音色の工夫やリズムパターンの 変化と 曲想と の関わり、 他者との 調和を 意識し て演奏 すること に関心 をもち、 主体的・ 協働的 にアン サンブル 活動に 取り組 もうと してい る。	
		A表現(2)音楽 「表現を工夫してギターを演奏し よう」	・ギターに興味をもち、音階や和音 (コード、 ダイア グラム)の 学習か ら、 旋律を 弾いたり コード 演奏し たりし て、 曲調に ふさわ しい表 現の工 夫をす る。	【知】曲想とギターの音色や奏法と の関わり について 理解し ている。 【技】創意 工夫を 生かした 音楽表 現を するた めに必要 な、曲に ふさわ しい奏 法、身 体 の 使 い 方 な ど の技能 を身に 付け、 音楽で 表現し ている。	・音色、リズム、速度、旋律、強弱 を知覚 し、そ れらの 動きを 感じな がら、 知覚し たこと と感受 したこ との関 わり につい て考え、 どのよ うに 演奏す るかにつ いて表 現意図 をも っている。	・曲想とギターの音色や奏法との 関わり に関心 をもち、 主体的・ 協働的 に音楽 の学習 活動に 取り組 もうと してい る。	
	10	B鑑賞 「世界の諸民族の音楽の魅力」	・世界各地の音楽の特徴と文化 的・歴史 的背景と の関わり を理 解し、 音楽表 現の共 通性や 固有性 につい て考 える。	【知】世界各地の音楽の特徴と文化 的・歴史 的背景と の関わり につい て理 解し てい る。	・音色、リズム、テクスチュア、構 成を知 覚し、 そ れらの 動きを 感じな がら、 知覚し たこと と感受 したこ との関 わり につい て考 える ととも に、音 楽表 現にお ける共 通性 や固有 性につ いて考 え、音 楽の よさや 美しさ、 多様性 を自ら 味わ って聴 いている。	・世界各地の音楽の特徴と文化 的・歴史 的背景と の関わり、 及び音 楽表 現の共 通性や 固有性 に関心 をもち、 主体的・ 協働的 に鑑賞 の学習 活動に 取り組 もうと してい る。	
	11	A表現(1)歌唱 「ミュージカルナンバーを歌おう」	・舞台作品としてのミュージカル(映 画)の 物語の 内容、 それぞ れのナ ンバー を歌う 登場人 物の心 情、曲 想と歌 詞の関 わりを 理 解し て、表 現の工 夫をし て歌 う。	【知】それぞれの作品の楽曲(ナ ンバー) の特徴 や作品 の時代 背景(文 化)、 舞台作 品とし ての表 現方法 を理 解し てい る。 【技】創意 工夫を 生かした 歌唱表 現を するた めに必要 な、曲に ふさわ しい発 声、言 葉の発 音、身 体 の 使 い 方 な ど の技能 を身に 付け、 歌唱で 表現し ている。	・音色、リズム、速度、旋律、テク スチュア、 強弱、 形式、 構成を 知覚し て、そ れらの 動きを 感 受し、 音楽の 美しさ や特徴 をとら えて、 どのよ うに 歌唱表 現する かにつ いて表 現意図 をも っている。	・曲想と音楽の構造や歌詞との 関わり に関心 をもち、 物語や 登場人 物、そ れぞ れのナ ンバー に関心 をもち、 主体的・ 協働的 に歌唱 の活動 に 取り組 もうと してい る。	
	12						
第3学期	1	B鑑賞 「舞台芸術に親しもう」	・オペラなどの総合芸術において 物語と 音楽が 関わり 合いな がらど うな 表現上 の効果 をもた してい るか、 音楽と 他の文 化が互 いにど うな 影響を 合せて 発展し てきた かを考 える。	【知】音楽の特徴と文化的・歴史 的背景、 他の芸 術との 関わり につい て理 解し てい る。	・音色、旋律、速度を知覚し、そ れらの 動きを 感じな がら、 知覚し たこと と感受 したこ との関 わり につい て考 える ととも に、曲 や演奏 に 対する 評価と その根 拠につ いて考 え、音 楽の よさや 美しさ を自ら 味わ って聴 いている。	・音楽の特徴と文化的・歴史 的背景、 他の芸 術との 関わり に関心 をもち、 主体的・ 協働的 に鑑賞 の学習 活動に 取り組 もうと してい る。	
		A表現(3)創作 「コード進行を元にメロディーを 作ろう」	・鍵盤楽器(ピアノ、キーボード)に 興味を もち、 音階や 和音(コ ード)の 学習か ら、和 音進 行(コード 進 行)か ら旋律 をつ くる活 動に 進み、 自ら 鍵盤 楽器で 弾いて 表現の 工夫を する。	【知】音階(音の並び)や和音(音 の重なり) を弾いた ときの 響きや、 音型 の 特徴に ついて 理 解し てい る。 【技】創意 工夫を 生かした 音楽表 現を するた めに必要 な、表 現形 態の 特徴を 生か して演奏 する技 能を身 に付け ている。	・音色やリズム、旋律、和音の 関係を知 覚し、そ れらの 動きを 感 受し、 特徴を とら えて、 どのよ うに音 楽を 作り出 し、自 ら表現 する かにつ いて表 現意図 をも っている。	・鍵盤楽器の演奏や、独奏やアン サンブル の演奏 すること に関心 をもち、 主体的・ 協働的 に創作 活動に 取り組 もうと してい る。	
	2	B鑑賞 「作曲家の作品意図を考えよう」	・曲想や表現上の効果と音楽の構 造との 関わり、 音楽の 特徴と 文化 的・歴 史的背 景との 関わり を理 解す ると とも に、 根拠を もって 曲や 演奏 を批評 する。	【知】曲想や表現上の効果と音楽 の構造と の関わり、 音楽の 特徴と 文化 的・歴 史的背 景、 他の 芸術と の関わり につい て理 解し てい る。	・音色、リズム、速度、旋律、テク スチュア、 強弱、 形式、 構成を 知覚し、 そ れらの 動きを 感 受し、 知覚し たこと と感受 したこ との関 わり につい て考 える ととも に、曲 や演奏 に 対する 評価と その根 拠や音 楽表 現の 共通性 や固有 性につ いて考 え、音 楽の よさや 美しさ を自ら 味わ って聴 いている。	・時代や作曲家の違いによる音 楽の 特徴を 感じ取 りながら 曲や 演奏に ついて 関心 をもち、 主体的・ 協働的 に鑑賞 の学習 活動に 取り組 もうと してい る。	
	3						

教科・科目		学年	単位数	教科書	補助教材
芸術・美術 I		1年	2単位	高校生の美術 (日本文教出版)	各種プリント
教科科目 目標	美術の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、美体験を重ね、生活や社会の中の美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。				
観点別 目標	(1)知識・技能	対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに、意図に応じて表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。			
	(2)思考・判断・表現	創造的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようになる。			
	(3)主体的に学習に取り組む態度	主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。			
評価方法	作品、プリント、授業態度				
学期	月	学習内容(内容のまとまり、章)	学習目標	観点別評価規準	
第1学期	4	・美術とは何か (絵画) ・身近なものを描く	・美術とは何かを考える ・新たな視点で見付けた形や色のよさや美しさ、愛着などを基に、存在感や雰囲気をつ捉えて描く。	・形や色彩、明暗、質感などの効果、全体のイメージなどを捉え、線の強弱や絵の具などの特性を生かして表している。 ・身近なものの特徴や美しさなどを基に、形や色彩、質感などの効果を考え、構想を練ったり鑑賞することができる。 ・身近なものの特徴や美しさなどを捉えて表す創作活動に、主体的に取り組もうとしている。	
	5				
	6	(絵画) ・私の見付けた風景	・視点や構図、色調、遠近感などの表し方などを工夫し、風景の魅力を引き出すように描く。	・風景の中の空間、形や色彩の効果、全体のイメージなどを捉え、絵の具などの特性を生かして表すことができる。 ・身近な場所や風景のイメージなどを基に、形や色彩、構図などの効果を考え、構想を練り鑑賞することができる。	
	7				
第2学期	9	(デザイン) ・イラストレーションの魅力	・伝えたい本の内容などを基に、伝えたいイメージを捉え、イラストレーションによる伝達の効果を考え、構想を練り、表現方法を工夫し表す。	・意図に応じて描画材などの特性や効果を生かすとともに、表現方法を創意工夫し、主題を追求して表している。 ・感じとったことや考えたことなどを基に、イラストレーションのよさや美しさ、伝えたい内容を表すための表現の工夫を考えて構想を練っている。 ・画材や表現方法などを工夫してイラストレーションで表す活動に、主体的に取り組もうとしている。	
	10				
	11	(彫刻) ・塑造で表す	・形や質感、量感、重心やバランス、動勢などの効果、全体のイメージなどを捉え、粘土などの材料の特性を生かして表す。	・意図に応じて、粘土などの材料の特性を生かし創意工夫し、主題を追求して創造的に表している。 ・形や質感、量感、重心やバランス、動勢などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。 ・表情や動きを捉えて粘土で表す創造活動に、主体的に取り組もうとしている。	
	12				
第3学期	1	(映像メディア表現) ・映像に包まれて	・光や動きを生かした映像の効果、美しさや全体のイメージを捉える。 ・映像表現の特質や表現効果、投影の工夫などを感じ取り、機器の特質を生かした創造的な工夫について考える。 ・映像表現のよさや美しさなどを鑑賞する創造活動に、主体的に取り組む。	・形や色彩、光、空間、動きなどの性質及びそれらが人の感情にもたらす効果や、映像作品の印象や特徴などを基に、全体のイメージを捉えることを理解している。 ・映像表現の特質や投影による表現効果などを感じ取り、作者の心情や表現の意図と機器の特性を生かした創造的な工夫などについて考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。 ・映像表現の特質や投影による表現効果などを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞	
	2				
	3				

教科・科目		学年	単位数	教科書	補助教材	
English Communication I		I	3	BLUE MARBLE English Communication I	・BLUE MARBLE English Communication I ナビゲーションノート(数研出版) ・BLUE MARBLE English Communication I ワークブック(数研出版)	
教科科目目標	外国語におけるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらをつ結びつけた統合的な言語活動を通して、情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりするコミュニケーションを図る資質・能力を次のとおり育成することを目指す。					
観点別目標	(1)知識・技能	外国語の音声や語彙、表現、文法、言語の動きなどの理解を深めるとともに、これらの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて、目的や場面、状況などに応じて適切に活用できる技能を身につけるようにする。				
	(2)思考・判断・表現	コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、日常的な話題や社会的な話題について、外国語で情報や考えなどの概要や要点、詳細、話し手や書き手の意図などを的確に理解したり、これらを活用して適切に表現したり伝え合ったりすることができる力を養う。				
	(3)主体的に学習に取り組む態度	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手、読み手、話し手、書き手に配慮しながら、主体的、自律的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。				
評価方法	定期考査、パフォーマンステスト(話すこと)、ペアワーク、グループワークでの取り組み、課題(授業課題及びその他各種課題)を基に総合的に評価する。					
学期	月	学習内容(内容のまとまり、章)	学習目標	観点別評価標準		
第1学期	4	■ Lesson 1 Friendships in the Digital Age	デジタル時代における友達付き合いについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を書くことができる。	各Part本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、新出語やKey Phrases、Key Languageの語彙和訳を用いて、本文の内容を要約したり、自分の意見を言ったりする技能を身に付けている。	デジタル時代における友達付き合いについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を言ったりしている。	デジタル時代における友達付き合いについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を言ったりしようとしている。
	5	■ Lesson 2 Expos: Past, Present, and Future	全Partを通して本文を読んで概要を把握することができる。	各Partとその関連文脈に関する英文を読み、その内容を理解する技能を身に付けている。	各Partとその関連文脈に関する英文を全Partを通して読み、概要を捉えている。	各Partとその関連文脈に関する英文を全Partを通して読み、概要を捉えようとしている。
	6	■ Lesson 3 The Fascinating World of a Professional Storyteller	本文の内容を自分のことばで簡単に伝えることができる。また、本文に関連したテーマの英文を読んで、意見をやり取りすることができる。	自分の好きな人物について、事実や自分の考えを整理して伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。	好きな人物に関連したテーマについて、事実や自分の考えを整理して、ペアで話し合ったりしている。	好きな人物に関連したテーマについて、事実や自分の考えを整理して、ペアで話し合ったりしようとしている。
	7	■ Lesson 4 Changing Behavior in Unique Ways	各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。また、本文の内容を再生できる。	新出語やKey Phrases、Key Languageの語彙和訳、本文の語彙和訳の整理を基に、拡張型ソーシャルデザインについて書かれた文章を読み取る技能を身に付けている。	拡張型ソーシャルデザインについて、理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握している。	拡張型ソーシャルデザインについて、理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。
第2学期	9	■ Lesson 5 A Journey to Peace	ルワンダ内戦とミラージュについて、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を述べる。	各Part本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、新出語やKey Phrases、Key Languageの語彙和訳を用いて、本文の内容を再生したり、自分の意見を述べたりする技能を身に付けている。	各Part本文の内容(ルワンダ内戦とミラージュ)について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を述べている。	各Part本文の内容(ルワンダ内戦とミラージュ)について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を述べている。
	10	■ Lesson 6 Humans Evolve with Measurements	全Partを通して本文を読んで概要を把握することができる。	各Partの概要に関する英文を読み、その内容を理解する技能を身に付けている。	各Partの概要に関する英文を全Partを通して読み、概要を捉えている。	各Partの概要に関する英文を全Partを通して読み、概要を捉えようとしている。
	11	■ Lesson 7 Bio-logging: Discovering Animals' Secrets	・各Partの本文の内容を読み、概要や要点を把握することができる。また、本文の内容を再生できる。 ・本文で使った発音、読解スキル、文法を理解し、それを用いて正しく英文を表現できる。	・新出語やKey Phrases、Key Languageの語彙和訳、本文の語彙和訳の整理を基に、バイオロギング研究やその研究事例について書かれた文章を読み取る技能を身に付けている。 ・新出語(when / where / why / how)を整理し、正しい英文を書く技能を身に付けている。	バイオロギング研究について、概要を整理し、概要を捉えている。 ・身近なテーマに関する設定を整理し、ターゲットとなる文法事項を使って質問に答えたり、自分の意見を表現している。	バイオロギング研究について、理解を深めるために、各Part本文の内容を読み取り、概要や要点を把握しようとしている。 ・身近なテーマに関する設定を整理し、ターゲットとなる文法事項を使って質問に答えたり、自分の意見を表現しようとしている。
	12	■ Lesson 8 What to Do with Too Many Tourists	本文の内容を自分のことばで簡単に伝えることができる。また、本文に関連したテーマの英文を読んで、意見をやり取りすることができる。	旅行計画立案について、事実や自分の考えを整理して伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。	旅行計画立案に関連したテーマについて、事実や自分の考えを整理して、ペアで話し合ったり、学習した語句や文法事項を用いて書いたりしている。	旅行計画立案に関連したテーマについて、事実や自分の考えを整理して、ペアで話し合ったり、学習した語句や文法事項を用いて書いたりしようとしている。
第3学期	1	■ Lesson 9 Surviving in the Information Age	・全Partを通して本文を読んで概要を把握することができる。 ・本文の内容(正しい情報の見極め方)について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を述べる。	・正しい情報の見極め方に関する英文を読み、その内容を理解する技能を身に付けている。 ・各Part本文の内容について、事実や自分の考えを整理し、新出語やKey Phrasesの語彙和訳を用いて、本文の内容を再生したり、自分の意見を言ったりする技能を身に付けている。	・正しい情報の見極め方に関する英文を全Partを通して読み、概要を捉えている。 ・各Part本文の内容(正しい情報の見極め方)について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を言ったりしている。	・正しい情報の見極め方に関する英文を全Partを通して読み、概要を捉えようとしている。 ・各Part本文の内容(正しい情報の見極め方)について、学習した語句や文法事項を用いて、自分の意見を言ったりしようとしている。
	2	■ Lesson 10 The Spirit of Zen: Less Is More	・全Partを通して本文の概要を把握することができる。 ・本文の内容を自分のことばで簡単に伝えることができる。また、本文に関連したテーマの英文を読んで、意見を述べたりすることができる。	・禅の精神と世界への影響に関する英文を読み、その内容を理解する技能を身に付けている。 ・本文の内容を整理し、適切なテーマについて、事実や自分の考えを整理して伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。マインドフルネスについて、事実や自分の考えを整理して伝える技能を身に付けている。	・禅の精神と世界への影響に関する英文を全Partを通して読み、概要を捉えている。 ・本文の内容を整理し、適切なテーマについて、事実や自分の考えを整理して伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。マインドフルネスについて、事実や自分の考えを整理して伝える技能を身に付けている。	・禅の精神と世界への影響に関する英文を全Partを通して読み、概要を捉えようとしている。 ・本文の内容を整理し、適切なテーマについて、事実や自分の考えを整理して伝えたり、相手からの質問に答えたりする技能を身に付けている。マインドフルネスについて、事実や自分の考えを整理して伝える技能を身に付けている。
	3					

教科・科目		学年	単位数	教科書	補助教材
家庭・家庭基礎		1	2	Agenda家庭基礎 (実教出版)	生活ハンドブック (第一学習社) とやまの高校生ライフプランガイド (富山県教育委員会)
教科科目 目標	生活様式の多様化が進む現代社会において、主体的に生活を営み、生活の充実向上を生活の営みに係る 見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に 向けて、主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を育成する				
観点別 目標	(1)知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらにかかわる技能を身につけている			
	(2)思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見出して課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身につけている			
	(3)主体的に学習に取り組む態度	さまざまな人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている			
評価方法	ワークシート、作品、確認テスト、発表				
学期	月	学習内容(内容のまとまり、章)	学習目標	観点別評価規準	
第1学期	4	衣生活―選んで着る―	・健康で快適な衣生活を営むために必要な被服材料について理解し、どのような構造でつくられているか理解する ・衣服の管理についての基礎的・基本的な知識を身につける ・持続可能な衣生活に向けた行動について考え、実践につなげる	(1)衣生活と衣服に関心をもち、自らの衣生活をより豊かで充実したものにするために、知識や技能の習得に意欲的に取り組もうとする (2)衣服の機能について理解し、TPOに応じた適切な衣服の選択ができる	
	5	食生活―楽しく安全に食べる― 1学期末考査 ホームプロジェクト 学校家庭クラブ活動	・健康な食生活を営むために必要な栄養、食品などの基礎的・基本的な知識と技術を理解する ・栄養や食品についての知識を元に健康を考え献立を作成し、調理についての基本的な技術や食品の特性をいかした調理法について理解し、実践できるようにする	(1)食生活や食物・食品に関心をもち、自らの食生活について、健康を維持するだけでなく、精神的な豊かさを向上させる意味もあわせ持つことを理解し、そのための知識や技術の習得、改善のための考察や行動に意欲的に取り組もうとする (3)調理実習において、調理のための基礎的な技術が習得できており、知識と融合させて、献立を考え、食品を選び、調理をするなどの行動ができる	
	6				
	7				
	7				
第2学期	9	ホームプロジェクト 自分・家族―多様化した社会に生きる―	・社会と生き方の多様化を把握するとともに、他者との比較を通して自己を客観的に見る視点を養う ・差別のない社会をつくる方法を考え、実践することができるようにする	(2)(3)家庭科の学習で学んできたことを活かし、課題解決のための過程を組み立てることができるまたそれを発表することができる (3)個人の生き方や性のあり方など多様性の尊重について理解している	
	10	子ども―子どもと生きる―	・子どもの特徴や感性に気づく ・子どもとふれあう機会を探すことで、子どもの成長を支える人々の役割、社会のしくみに関心を持つ	(1)(2)多様な生き方・パートナーシップの保障、男女共同参画、ワーク・ライフ・バランスを踏まえた家事・職業のあり方などについて理解し、ライフスタイルをめぐる問題やワークルールなどについての基礎的・基本的な知識を身につけている2	
	11	高齢者―高齢者と生きる― 社会福祉―支えあい共に生きる―	・高齢者の心身の特徴を理解する ・介助の体験を通して、高齢者の生活支援技術の知識を習得する ・共生社会とその理念を理解する	(2)子どもや子育てに関心をもち、子どもを取り巻く地域の人間として、あるいは将来の親として、子どもが健やかに成長するためにはどうしたらいいのかを、意欲的に考えようとする(1)高齢者の心身・生活の特徴や高齢社会の現状、福祉制度などを理解し、それらについての基礎的・基本的知識が身につけている	
	12	2学期末考査	・ボランティア活動や、持続可能な共生社会をめざした取り組みについて理解する		
	12				
第3学期	1	住生活―人間らしく住む― 消費・環境―消費社会を生きる―	・住まいとその役割について理解し、将来の適切な選択につなげられるようにする ・持続可能な社会づくりには市民の主体的な参加が欠かせないことを、話し合いを通じて理解する ・ライフイベントにかかる費用やリスクを調べることで、収入と支出のバランスを考える姿勢を養う	(1)住まいと住まい方、地域に関心をもち、自らの住生活を安全で人間らしい充実したものにするために必要な知識・技術を身につけている (3)自らの消費行動と社会との関係や消費者情報に関心をもち、社会的影響や環境への負荷などに配慮しながら、主体的で責任ある消費行動をとろうとする	
	2	生活設計―自分の未来を描く― 学年末考査	・消費者被害の構造を理解し、問題高法の被害に遭わない・加害者にならないようにする姿勢を養う ・家庭科の学習で学んだことをふまえたうえで、これからの自分の職業や家族間、生きがいなどの将来像を考えることができる	(2)家庭科の学習で学んできたことを生活設計に活かすことができる	
	3				
	3				

教科・科目	対象学年	単位数	教科書	使用教材(副教材)
情報 情報の科学	2年	2単位	新・情報の科学 (日本文教出版)	情報のノート (日本文教出版)
科目の概要と目標	・情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解する。 ・様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する方法を知る。 ・情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を身に付ける。			
単 元	学習内容		到達度目標	
情報社会の問題解決	情報と情報技術を活用した問題の発見・解決の方法に着目し、情報社会の問題を発見・解決する活動を行う。		・目的や状況に応じて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用して問題を発見・解決する方法について考える。 ・情報に関する法規や制度及びマナーの意義、情報社会において個人の果たす役割や責任を科学的に考察する。 ・情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築について考察する。	
コミュニケーションと情報デザイン	メディアとコミュニケーション手段及び情報デザインに着目し、目的や状況に応じて受け手に分かりやすく情報を伝える活動を行う。		・メディアとコミュニケーション手段の関係を科学的に捉え目的や状況に応じて適切に選択できる。 ・コミュニケーションの目的を明確にして適切かつ効果的な情報デザインを考える。 ・効果的なコミュニケーションを行うための情報デザインの考え方や方法に基づいて表現し評価し改善する。	
コンピュータとプログラミング	コンピュータで情報が処理される仕組みに着目し、プログラミングやシミュレーションによって問題を発見・解決する活動を行う。		・コンピュータで扱われる情報の特徴とコンピュータの能力との関係について考察する。 ・目的に応じたアルゴリズムを考え適切な方法で表現し、プログラミングによりコンピュータや情報通信ネットワークを活用するとともに、その過程を評価し改善する。 ・目的に応じたモデル化やシミュレーションを適切に行うとともに、その結果を踏まえて問題の適切な解決方法を考える。	
情報通信ネットワークとデータの活用	情報通信ネットワークを介して流通するデータに着目し、情報通信ネットワークや情報システムにより提供されるサービスを活用し、問題を発見・解決する活動を行う。		・目的や状況に応じて、情報通信ネットワークにおける必要な構成要素を選択するとともに、情報セキュリティを確保する方法について考える。 ・情報システムが提供するサービスの効果的な活用について考える。 ・データの収集、整理、分析及び結果の表現の方法を適切に選択し、実行し、評価し改善する。	